

れんごう中越地協

第1116号2022.7.21
連合中越地域協議会
長岡市愛宕3-7-24
TEL 0258-86-0111
FAX 0258-86-0884
発行人 矢島 良彦
定価 1部10円
購読料は会費に含む



長岡地区労働者福祉協議会総会

手をとりあひのべ共助けあひのこを進めぬ

6月28日(火)長岡地区労働者福祉協議会(長岡地区労協)は、2022年度総会を開催し、21年度活動・会計報告並びに22年度活動計画・予算を承認した。



中澤副会長(労金)

島会長(連合中越議)

フオーラムは10月23日柏崎市で開催する。

22年度事業計画と予算を今井事務局

が以下のように提案した。「ながおかワーク&ライフセミナー」は、2月から3月にかけて開催すること。新潟県LSC事業について相談員のスキルアップを図っていくこと。

「官から民へ」の動きは大切で、もっと進めなければならぬと思います。ただ、日本で行われている、水や教育、福祉といった私たちが大切な公共財、社会的共通資本を金儲けのための営利企業に売り渡す民間化ではありません。今、スペイン、フランスなどでは、「ミニシパリズム」といわれる理念に基づく再公営化運動が拡大しています。具体的には民営化された病院、水道事業などを再公営化する場合、単に元の官営にするのではなく、多くの市民が出資する協同組合などのコモンズ(中間共同体)と連携して公営化し、より多くの市民が参加する形で運営していくというものです。▼実は日本も過去に政府が先頭にたって推進しようとした時もあったのです。民主党政権時の平成22年「人々の支え合いと活気のある社会。それをつくること」に向けたさまざまな当事者の自発的な協働の場が『新しい公共』である。」と宣言された「新しい公共」の取組です。しかし公共財を売り払って、言い換えれば

長岡エリア統括店支店長が「地域社会が持続可能であることが大切で、勤労者・市民の福祉要求を取り上げ、生活安定と経済的・社会的地位の向上に向け長岡地区労協活動を進めていく」と開会あいさつ。

主権者を代表して矢島会長(連合中越議長)からは「参議員選挙の最中ですが、ロシアの軍事侵攻などで私たちの生活が覆されている。自立支援が求められる。政治が機能していない。私たちが長岡地区労協が手を差しのべていく『共助』が必要だ。セミナーの開催など生活者の目線で活動をしていく」とあいさつ。

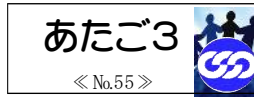
次に、新潟県労働者福祉協議会(県労協)佐藤事務局長が「長岡地区労協は新潟県ライフサポートセンター(LSC)事業やワーク&ライフセミナー開催など県内の先進的地区労協として活動している」と感謝を述べ、次の県労協事業を紹介した。①昨年10月から長岡地区に集約した新潟県LSC事業。②フードバンク事業は県内24団体あること。

「新しい公共」宣言はこちら

次に、新潟県労働者福祉協議会(県労協)佐藤事務局長が「長岡地区労協は新潟県ライフサポートセンター(LSC)事業やワーク&ライフセミナー開催など県内の先進的地区労協として活動している」と感謝を述べ、次の県労協事業を紹介した。①昨年10月から長岡地区に集約した新潟県LSC事業。②フードバンク事業は県内24団体あること。

22年の役員体制が提案され、新たに中越地域退職者連合の高峰事務局長が幹事として加わり、他の役員は留任した。

世話するので、経費の関係からDV対象者のみをシェルター利用と見なすが、今年は何人かシェルター利用がなかった。利用者が高まった理由は、コロナ禍の影響等から回収しリサイクルして



副議長 横澤勝之



日本を売り払って金儲けをした自民党や維新の会の皆さんにとってはまさに悪夢。政権奪還後の自民党が行ったのが「新しい公共」つぶしだったのです。この結果が、子どもたちのために必死に働いている保育士が低賃金であえいでいる一方、保育園を運営する株式会社経営者が億単位の配当を得ているような今だけ金だけ自分だけの社会なのです。▼「ミニシパリズム」とは新自由主義的な政策を進める中央政府によって人権、公共財、民主主義への圧力が強まる中、地域で住民が直接参加して合理的な未来を設計することで市民の自由や社会的権利を公的空間に拡大しようとする運動でもあります。▼大切な社会的資源を切り売りする今の政治が持続可能なわけがありません。次代に対応できる「新しい公共」を生活の場から作り上げていく自治体が生き残っていくのだと思います。

サラリーマン川柳(妻・子・俺) 格差社会は 我が家にも(人言えぬ) 苦勞してると 人に言い(妻よ知れ) 耳に心で 恥じらいと(言い訳は) 血液型の せいにする(裏面へ続く)

サラリーマン川柳 (「あたまから否定するな」) (否定され) (妹は嫌いなものだけ) (ダイエット) (アプリだけ) (俺の健康) (気にかける) (我が家でも) (いつも隅に) (すわる癖)

へいわ まも 平和を守ろう

昭和20年8月1日は長岡大空襲の日です

真夜中の空襲・市街地の八割は火の海

1945年(昭和20年)8月1日午後10時30分ごろから、アメリカの爆撃機B29 125機が長岡上空に襲来、雨のように焼夷弾を落としました。あの空襲により全戸の73%にあたる263,160人が焼死されました。焼けた家は11,986戸にのぼりました。また、この空襲によって子どもたち約300人を含む1,488人の尊い命が奪われました。このようないまわしい戦争が二度と起こらないようにとの願いをこめて、新潟県教職員組合は1951年「平和像」を建立し、8月1日に「平和祈願祭」を行ってきました。

1984年、長岡市は「非核平和都市宣言」を行いました。
2015年、長岡市は8月1日を「長岡市恒久平和の日」としました。

一九四五年八月一日、ここに長岡に投下された炸弾の爆。二八〇余のいのち。さうなうばい。あつた。そのあつた。あつた。平和をまもり戦争をなくす。ことだ。

平和の森公園にある平和像と碑文
新潟県教職員組合
昭和二十一年八月一日

空襲で亡くなった子どもたち・教職員と市民を追悼する集い

～2022平和祈願祭～

8月1日(月) 午前8時～ 平和の森公園

主催 / 新潟県教職員組合 長岡支部 長岡市・長岡市議会
後援 / 新潟県非核平和都市宣言推進委員会

平和の森公園献花時間

8月1日(月) 午前8時～12時

※今年度は新型コロナウイルス感染症対応により、「市民におくる献花の集い」は実施しません。

長岡大空襲の体験記

八月一日の夜、大空襲の日。その時の体験を、当時の小学生が作文を交えてお話ししています。

空しゅう 田中 幸子

平和教育資料
長岡大空襲の体験記

(表面から)

長い間、地域のリサイクル循環にご協力いただき、長岡地区労福協は、地域循環ネットワークの実績・活動に大変感謝です。

フードバンクながおか羽賀実事務局長は「6月24日に総会を開き、新たな年度の活動計画を確認しスタートした。現在180～200世帯に物資支援をしている。コロナ禍でフードドライブができず、物資を購入している状況だ。支援スタッフが少ないので、多くの皆さんのスタッフ参加をお願いしたい」と述べた。

中澤副会長からは「労働金庫70周年特別配当金を活用し給付型奨学金制度への支援を行う。安心スマイルプロジェクトの一環で高校生に金融教育活動を行っている。地域の中で安心して生活できる社会を目指し努力する」と述べた。

板倉こくみん共済coop新潟推進本部中越支所長は「22年から3年のスパンで中期経営戦略の中でデジタル化を使ったサービス向上を図っている。職域、団体を問わず窓口利用の強化を進め、日曜日開店も模索する。生協としてのスタンスを守りながら、これからは店舗利用を進めていく」と述べた。

成田中越地域退職者連合会長と高峰事務局長から「5月20日に総会を開催し活動計画を確認した。長岡地区労福協活動に協力し、フードバンク仕分け作業に役員を中心に協力していく。また、長岡市・見附市に対し高齢者の福祉推進を高める要請活動を行う。連合中越とともに勤労者の生活安定を目指し活動する」と述べた。

最後に、板倉副会長が「いくつかの社会不安問題が報告された。弱者を出さないことが私たちの根底になっている。長岡地区労福協活動を手を取り合いながら、更に進めていこう」と閉会の挨拶で総会を終了した。

一般社団法人地域ルネサンス創造機構 シンクタンク・ザ・リバーバンク 創立10周年記念
しなの川音楽祭 生誕30周年記念

歴史探偵＝半藤一利さん追悼フォーラム&平和を考え・行動を続ける長岡
『半藤一利さんが私たちに伝えたかったこと』

『もう戦争は二度とこりごりだ』

一人間の眼は、歴史を学ぶことで、はじめて開くものである

日時 令和4(2022)年8月6日
午後1時30分～午後4時

会場 ホテルニューオータニ長岡 NCホール

講師 保阪正康氏 戸高一成氏 井上亮氏

主 催 一般社団法人地域ルネサンス創造機構シンクタンク・ザ・リバーバンク
共 催 長岡ベネクラ、安善の会
特別協賛 長岡商工会議所、NPO法人山本元幹事会
後 援 長岡市、長岡市教育委員会、新潟県立歴史博物館、新潟県立歴史博物館友の会、にいがた文化の記憶館、米百俵財団、長岡高等学校同窓会、長岡県土史研究会、長岡中央図書館、長岡市戦災殉難者追悼会、長岡市仏教会、連合中越、ながおかお遊会、新潟日報社、長岡新聞社、N S T、NCT、FMながおか80.7

～おかげさまで創立10周年を迎えました～

開催主旨

半藤一利さんは、東京と長岡で2回「戦災体験」をされました。疎開されて長岡中学を卒業されたご縁と共に、半藤一利さんの奥様 末利子さんは、長岡の文化人・松岡 謙さんの四女でおられます。不思議なご縁を感じます。半藤さんの人生、経歴、活躍のご紹介は省かせていただきます。(追悼・特集号は、沢山出版されておりますが別冊「太陽」を参照)

半藤さんの「歴史観」を聞く信念は、爆火の中を逃げ回りかろうじて助かった奇跡的な戦争体験が基底にあるとされます。新潟県内唯一の戦災都市である長岡では昭和20(1945)年8月1日に空襲に遭遇されました。その後、長岡中学校を卒業するまで若い日々を長岡で過ごされました。文藝春秋社に勤務された多忙な中ですが、長岡の精神文化の誇りとする「米百俵賞」の選考委員長を務めていただくなど第二の故郷としてご尽力賜りました。

半藤さんは「歴史とともに生きる」ことを実践された作家、歴史家、戦史研究者、夏目漱石研究者であられ、多面的な活躍をされました。特に、日本の近現代史並びに昭和史の歴史探偵として多くの人々の面談・聞き取りに奔走され、数多くの「著書」と「全言」を残された半藤一利さんの「歴史観」を学び、「長岡市の未来への道筋」とすることは、長岡市民の財産・遺産、責任とも言えます。

今、まさに「ロシアとウクライナ戦争」をどのように受け止めるかは戦災体験者である半藤一利さんの「歴史観」に学ばなければならない時だと強く思われ、感じる日々であります。

長岡市民として新潟県民として半藤一利さんを追悼しつつ、改めて歴史を紐解き体験からの「恒久平和」を語り、平和な国・日本、平和創造都市・長岡を語り継ぐフォーラムとして『平和』を誓い合うことを企画主旨と致します。

〈FAX・Eメール・ハガキ 申込事項〉

申込日 7月 日

お申込先 FAX ▶(0258) 33-5684
E-mail ▶shinanogawa2@gmail.com

歴史探偵＝半藤一利さん追悼フォーラム&平和を考え・行動を続ける長岡
『半藤一利さんが私たちに伝えたかったこと』
『もう戦争は二度とこりごりだ』
一人間の眼は、歴史を学ぶことで、はじめて開くものである

フリガナ	
氏名	(〒 -)
住所	
ご連絡先	一般電話: 携帯電話:

※必ずお読み下さい

- ① 今後の新型コロナウイルス感染症拡大状況によって定員数等に変更が生じた場合、事務局からご連絡いたします。
- ② 「申込」が不在の場合はご入場できません。
- ③ 定員150人に達し次第、受付を締め切らせていただきます。
- ④ 教員名でお申し込みされる場合、ご出席される方卒業の氏名、住所、連絡先をご記入ください。
- ⑤ 当日、発給率の状況がある場合はご来場をお断りいたします。
- ⑥ 申込後、キャンセルされる際は事務局までご連絡をお願いします。
- ⑦ お預かりした個人情報、今回のフォーラムに関する業務にのみ使用いたします。
- ★ 来場の際は、自主「検温」をお願いします。
- ★ ハガキ申し込みの場合は、上記欄「氏名・住所・電話」を記入してください。

ハガキの送付先 〒940-0064 長岡市殿町1丁目5-1 エイシン殿町ビル
シンクタンク・ザ・リバーバンク 理事長 鈴木重吾